

## おすすめの一冊

斎藤兆史『英語達人列伝—あっぱれ日本人の英語』中公新書 2000年

図書館運営委員 今仲学部長

幕末から昭和初期にかけて様々な分野で活躍した歴史上の人物を英語の使い手という視点から描き、痛快なエピソードを中心に日本人学習者に対する格好のお手本として紹介した本です。

ボストンの街を弟子の横山大観と歩いていたら、いきなり英語で差別的な言葉を投げ付けられて、即座に切り返し相手をやり込めたという岡倉天心、小澤征爾らを育てた斎藤秀雄の父であり、優れた英語辞書を残した日本英学界の巨人、斎藤秀三郎が母語話者と対等に渡り合った話、第二次大戦後の占領時代に連合国側との交渉にあたり、あのマッカーサーと英語で対等にやりあってGHQに「従順ならざる唯一の日本人」と言わしめたという白洲次郎ほか、新渡戸稲造、鈴木大拙、幣原喜重郎、野口英世、岩崎民平、西脇順三郎など、歴代の英語の達人を剣豪になぞらえて解説し、爽快な気分させてくれる読み物です。英語学習で伸び悩んでいる人や刺激を受けてモチベーションを高めたいと思っている人に元気を与えてくれる一冊です。



## <最新 蔵書推薦図書コーナー>

著書名	著者名	説明	出版社
本屋になりたい	宇田智子	「本屋になりたい」という気持ちのままに東京の巨大新刊書店から仲儀の小さな古本屋へ。この島の本を買取り、並べて、売る日々の中で本と人のあいだに立って考えたことは・・・。	筑摩書房
<自分らしさ>って何だろう？	榎本博明	青年期に誰もがぶつかる「自分らしさ」の問題。答えを見出しにくい現代において、どうすれば自分らしく生きていけるのか、「自己物語」という視点から考える。	筑摩書房
日本サブカルチャーを読む	押野武志	吉沢賢治・村上春樹など文学作品からメタリ、ラノベ、百合小説、BL、アイドル、ゲームまで、多種多様な対象とジャンルを取り上げ、その現代的意義と可能性を明らかにする。	北海道大学出版会
公会堂と民衆の近代	新藤浩伸	日比谷公会堂の内容面を伴って彫りにしつつ、舞台と客席という公会堂の施設空間に交錯した民衆の近代、日本の近代を描き出す。	東京大学出版会
スポーツと勝利至上主義	関昭昭	勝敗の関係なくして活動自体を楽しめるものなのか？日本の学校スポーツのありかたを考える。	ナカニシヤ出版
「和食」って何？	阿古真理	海外からきた食文化を取り入れることで、日本の食は大きく進化してきた。そのなかで変わらずにいるコアな部分とは何か、私たちの食と暮らしをもう一度見直そう。	筑摩書房
モノと図像から探る怪異・妖怪の世界	天理大学考古学	弥生土器に描かれた線刻画、鏡の文様にある想像上の動物たち、瓦に成形された鬼や幾何学模様。考古学・民俗学が研究対象とする遺物や遺跡、儀礼や祭礼の世界には、怪異・妖怪現象を導く素材があふれている。	勉誠出版
茶の湯と音楽	岡本文音	茶の湯の美的価値観や性格は、これまで現存する道具や茶室、道具名物記や描かれた茶室の図面など、形とし	思文閣出版

★本のことでわからないことがあったら、図書館スタッフ（司書さん）に相談してね。

By とつくん